

部門賞 受賞者の紹介



環境工学部門功績賞を 受賞して

大久保 雅章
大阪府立大学

環境工学部門の功績賞を賜りまして誠に有難うございます。環境工学を研究し機械工学を専攻する者として、本部門を第一志望の学術活動の場として捉え重視し、講演会、講習会、見学会等を企画し、又、大学での産学官の共同研究成果を中心に毎年発表してきました。また2007年度には部門長を拝命しました。これらを含む部門での活動が評価され大変うれしく思ってお

ります。今後の教育研究の励みにさせていただきます。

環境技術の機械工学に占めるウエイトは今後増加することは有れ、減ずることは無いと信じます。

本部門組織の4つの技術委員会は日本国内の環境技術を統括する規模と内容を有しており、例えば近年の国際的課題であるPM2.5の浄化技術でも貢献が期待されます。

今後は、いわゆる四力学に関わる部門が中心の機械学会の中で、環境工学部門のステータスをより向上させることも重要な課題であると考えます。学会誌特集企画あるいは学会賞に積極的に応募するなど、ステータスを上げる活動に部門所属の方々と取り組みたいと思っています。最後に再度の御礼を申し上げます。

この度は本当に有難うございました。



環境工学部門研究業績賞を 受賞して

神原 信志
岐阜大学大学院工学研究科
環境エネルギーシステム専攻

この度は、2013年度環境工学部門研究業績賞という名誉ある賞をいただき、誠に光栄に思います。これまでに多大なる御支援・御指導をいただいた関係諸氏に感謝いたします。

受賞対象は、大気圧プラズマを利用した環境負荷物質(NOx、N₂O、Hg)の浄化法の開発に関する一連の研究です。

新しい無触媒脱硝法(SNCR)の開発では、大気圧プラズマ中でアンモニアを励起し、それを排ガス中に吹き込む気相反応法によって、従来のSNCRの反応温度域を大幅に低温化することに成功しました。

このほか、N₂Oの分解処理、気相水銀の酸化処理、燃料電池排水素の低温酸化処理において、新規な反応場を用いた環境浄化法を提案してきました。

これらの成果は、環境工学総合シンポジウムおよび機械工学論文集で積極的に発表してきましたが、今回それらの研究活動を評価いただいたということで、共同研究者共々大きな励みとなっております。

今後も社会に有益な新規反応法の研究開発を推進していく計画です。皆様のさらなる御支援・御指導をよろしくお願い致します。



環境工学部門技術業績賞を 受賞して

栗田 健
東日本旅客鉄道株式会社

この度は、栄えある環境工学部門技術業績賞を賜り、大変光栄に存じます。受賞対象は高速新幹線車両の車外騒音低減技術の開発です。新幹線の高速化の大きな課題の一つは、世界的に見ても厳しい環境基準が定められている沿線騒音の低減です。

私は約20年前にこの分野に足を踏み入れ、この間、低騒音パンタグラフやトンネル微気圧波低減のための

先頭形状の開発など従事するとともに、2005年頃からは新幹線高速試験電車FASTECH360を用いた騒音低減技術の開発に取り組みました。

その成果は新型新幹線車両E5系「はやぶさ」、E6系「こまち」に採用され、TGVと並んで世界最速となる最高速度320km/hの営業運転を実現することができました。

最近の新幹線車両は従来目立っていた音源は対策済みであり、騒音低減のためには、音源別寄与度に応じて複数の音源対策を同時に実施することが必要になります。今回の成果も非常に多くの関係者との共同成果であり、ご協力いただいた皆様に心から感謝申し上げます。今回の受賞を励みにして、今後も環境工学の発展に少しでも貢献できるよう努力する所存です。